

不登校特例校

不登校特例校とは

正式名称は「不登校児童生徒を対象とする特別の教育課程を編成して教育を実施する学校」で、文部科学大臣が指定するものです。

学習指導要領にとらわれず、不登校の児童・生徒に合った教育を実施しています。

- ・年間の総授業時間を750～770時間に抑える
- ・習熟度別でのクラス編成、学年の枠を超えて編成される
- ・体験学習、校外学習、ボランティアに力を入れる
- ・教室に入るのが苦手な子に適した小グループ指導や個別学習の時間を設ける
- ・専任教員の増員やスクールカウンセラーを設置する

など、柔軟な対応を取る特例校が多いです。

不登校特例校はフリースクールとは違い、元の学校から転校でき、通常と同じ卒業資格を得ることができます。

不登校特例校の紹介

では実際にどこに学校があるのでしょうか？

文科省から出ている令和4年度の不「登校特例校の設置状況」

(https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1387004.htm)によると

全国に18校あり、そのうち東京都には8校あります。

学校によって教え方や何を大切に指導しているのか変わるため、近くにいづつかある場合にはそれを基準に選んでみるのもいいでしょう。

不登校特例校に行く以外の選択肢

フリースクールという選択肢

日本では、学校外でも様々な学び方ができる機会を提供することを、教育機会確保法によって定めています。

不登校特例校以外にもフリースクールという選択肢もあります。

フリースクールとは、何らかの理由で不登校になっている子供たちを受け入れ、学習活動や体験活動など、学びの場所を提供しており、主な活動は相談、カウンセリング、個別学習です。

小学生～大学生までの方が通うことができます。

フリースクールと言っても、様々なタイプがあります。

学校に復帰できるよう支援をしてくれる、子供の居場所になる、カウンセラーや臨床心理士によりサポートしてくれる、自宅訪問など子供に合った環境を選ぶことができます。

全国に500カ所も

平成27年度に文科省が実施した調査では、全国に500カ所あり、不登校特例校よりも数が多く、通う場所を選びやすい利点があります。

入学資格を設けていないことが多く、子供に合う施設を選ぶことができます。

フリースクールの開所日数は週4～6日で、初めは週一で様子を見たり、生活リズムによって午前のみ、午後のみ通うなど、選ぶことができます。

かかる費用

フリースクールに通うには、費用がかかります。

フリースクールにかかる費用としては、入学金の平均が約5万3千円、授業料の月額平均が約3万3千円となっています。ですがこれは施設によっても異なるため、気になるフリースクールがあれば確認が必要です。

その後の進路は？

親が気になるところは「学校を卒業したことになるのか」や「フリースクールを卒業した後の進路は？」というところですね。

中学校の卒業資格までは取ることができます。義務教育期間中のため、学校に籍を置いたまま利用することができるからです。

ですが、高校の卒業資格は取得できず中卒扱いになってしまうため注意が必要です。就職を目指す場合には不利になってしまう可能性があるため、注意が必要です。

親が不登校の子と接するときに

文部科学省によると、不登校の定義は「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために30日間以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由のよるものを除いたもの」となっています。

不登校の理由や原因は様々ですが、いじめや、いじめ以外の友人関係のトラブル、教職員との人間関係など学校が原因の場合。他にも入学、進級時に適応できないことなどが挙げられます。

家庭内のトラブルでも不登校になってしまうケースもあります。

例えば両親の離婚、近親者との死別などです。急な家庭環境の変化に子どもがついていけずストレスを感じ、一人で抱え込んでしまう子供もいます。

では実際どう接したらよいのでしょうか。

無理に通わせない

不登校になると焦ってしまい、叱って行かせようとしたり無理に行かせようとしてしまうかも知れません。

ですがこれはよくないです。その日は行くことができても、また次の日には行けなくなっては根本の解決にはなりません。余計に学校に行きたくないと思ってしまう。親にこれを言われてしまうと、本来頼るべき相手のはずなのに、頼れなくなってしまい、いざ話を聞こうと寄り添っても、心を閉ざして話してくれなくなる可能性があります。

そのため、無理に行かせようとはせずに、人間関係のトラブルなのか、家庭内でのことが原因なのか、理由は様々あるため、子どもがなぜ行きたがらないのかを聞いておきましょう。その上でどう対応したらいいのかを考えていきましょう。

趣味を見つけてみる

子どもを無理に通わせずに、趣味や興味のあることを一緒に探してみるのもいいでしょう。

趣味を見つけることで共通の仲間を見つけることができるかもしれません。そこが新しい居場所になったりもします。

安心できる場所や、自分がいていいと思えるところができることで、次第に明るく前向きになれるのではないのでしょうか。

人とかかわるのが苦手な子どもでも、読書、料理、お絵描きなど一人でできる趣味はたくさんあります。

親も一緒にできるものもあるので、そういったものを探して一緒に楽しめると、より楽しく前向きにもなるでしょう。

不登校だということを認めたくない子もいる

「不登校は弱いから」「不登校になってはいけない」

まずは親が子どもに寄り添いコミュニケーションを取ってあげることです。